

# 朝日町 議会だより

第41号

平成16年5月1日

ご入学おめでとうございます



第1回  
議会  
定例会

	ページ
条例の制定等 6件	2
15年度補正予算 人事案件等	3
代表質問 4名	4～9
一般質問 5名	10～14
常任委員長報告等	15
議会日誌 1月～3月	16

PHOTO 南保小学校最後の一年生

発行編集 富山県朝日町議会だより編集委員会



まちづくり振興課

朝日町課等設置条例全部改正の件  
朝日町病院事業の設置等に関する条例一部改正の件  
朝日町火災予防条例一部改正の件  
朝日町公の施設の指定管理者の指定の手續等に関する条例制定の件

条例制定等

平成16年度当初予算・平成15年度補正予算・条例改正案件など27議案を可決



産業建設課



町民ふくし課

	改正前	H16.4.1から
議長	362,000円	354,000円
副議長	313,000円	306,000円
議員	294,000円	288,000円

町議会議員の報酬改正

朝日町議会議員の報酬及び費用弁償等に関する条例一部改正の件（議員提出議案）

16年第1回議会定例会は、3月8日から23日までの16日間にわたり開催され、16年度予算や15年度の補正予算、条例の制定改正案などが審議され、原案のとおり可決されました。また、議員提出議案が4件、人事案件が1件提案され、すべて可決、同意されました。

朝日町議会委員会条例一部改正の件（議員提出議案）

【新委員会名及び所管】

総務教育常任委員会

総務政策課、税務財政課、出納室、教育委員会、消防本部、選挙管理委員会及び監査委員の所管に関する事項、他の常任委員会の所管に属しない事項

福祉厚生常任委員会

町民ふくし課及び町立病院の所管に関する事項

産業経済常任委員会

まちづくり振興課、産業建設課及び農業委員会の所管に関する事項



役場庁舎等改修工事

朝日町役場庁舎等改修工事（第二期）請負契約締結に関する件  
朝日町文化体育センターグラウンド及び朝日中学校グラウンド改修工事請負契約締結に関する件

その他の案件

朝日町山王76番地  
森岡元就氏（68歳）の選任に同意

人事案件

朝日町固定資産評価審査委員会の委員を選任するため同意を求めめる件

15年度補正予算の主なもの	
一般会計（補正6号）	補正総額 4億5,314万円
広域圏事務組合分担金	1,334万円
新川地域介護保険組合負担金	774万円
合併処理浄化槽設置補助	408万円
担い手農家育成事業	134万円
農免農道整備事業負担金	6,323万円
宮崎漁港改修事業	450万円
公共バス運行事業	108万円
道路橋梁新設改良事業	850万円
道路改良事業	1,653万円
下水道特別会計繰出金	4,431万円
美術品購入	250万円
基金積立金	40,000万円
特別会計	
国民健康保険会計	548万円
簡易水道会計	93万円
下水道会計	5,850万円

（16年度予算概要については、広報あさひ4月号をご覧ください）

議員提出議案

地方交付税等の大幅削減に対する見直しを求める意見書  
基礎年金の国庫負担割合3分の1から2分の1へと早急に引き上げを求める意見書

請願・陳情

採択となったもの  
安心と信頼の年金制度改革を求める意見書等採択についての陳情



購入された美術品の一点 大平山濤作「黒部峡谷」

継続審査となったもの  
屋内ゲートボール場の建設を求める請願書

不採択となったもの  
イラクへの自衛隊派兵計画を直ちに中止することを強く求める意見書採択に関する請願書  
戦闘の続くイラクへの自衛隊派遣の中止を求める意見書に関する請願

## 平成16年度予算について

長崎 智子（翔政会代表）

**質問** 16年度予算編成の、基本的な考え方、財源の確保にどう取り組んだか。

**答弁 町長** 厳格なコスト意識を持って予算編成作業を進め、あらゆる施策に創意と工夫を凝らすことを厳しく指示した。

その結果、一般会計の総額は対前年度比0・3%増となったが、減税補てん債借りがえ分を除いた実質的な伸び率は4・2%減となり、一般財源ベースでも4・7%の減となった。

また、行政組織改革による事務の効率化を図り、人件費では職員数の削減等により対前年度比5・0%減となった。

第3次朝日町総合計画の後期基本計画を踏まえたあさひ総合病院の新築事業や下水道整備事業、向陽町団地のリフォーム事業など、町民の健康と生活基盤の根幹となる必要な重点事業については、着実に推進させ、将来の人づくりの主な新規事業として、町立児童館

の建設や、不妊治療費への助成事業、また、福祉のまちづくり事業として、町民が利用しやすい健康づくりの拠点施設として児童館と併設した新しい保健センターを建設することにした。

さらに、社会福祉法人有磯会において、病院と在宅介護を結ぶ中間施設としての介護老人保健施設と高齢者向けの生活支援施設としてのケアハウスを合築して整備するに当たり、財政支援を行うなど最重要課題である高齢者対策に優先して取り組むなど、予算配分の重点化、効率化に努めた。

国が進める三位一体の改革による深刻な財源不足のなか、より一層創意と工夫を持って、今後も活力あふれるまちづくりのために最大限の力を傾注し取り組んでいきたい。

## 小学校環境整備について

**質問** 南保小学校の児童の統合先は、どの学校になるのか。統合先への通学方法はどのようになるのか。



南保小学校の児童たち

児童に対するケアはどのように考えているか。  
学校跡地施設の計画案に、地区の意見や考えを盛り込めるか。  
跡地には個人の所有の土地があるとのことだが、その処置法はどうなるのか。

**答弁 柳下教育委員会事務局長** 統合の相手校は、地区の意向を尊重すべきと考え、あさひ野小学校と決めた。

保護者、学校、教育委員会と協議し、通学路を指定することになるが、その際、3キロメートル以上の通学距離がある地域に対しては、これまでの扱いと同様スクールバスでの通学を考えてる。  
統合する際、児童の心理的負担を解消するためにも、学校間の協議により、両校児童の交流計画を立て、自然に溶け込めるような環境づくりが必要であり、学校行事の相互参加、合同現地学習を初めとして、児童の心理的状況を把握しながら段階的に交流の度合いを深めていきたい。



蛭谷地内の山腹崩壊箇所

### 防災対策について

**質問** 蛭谷地内における山腹崩壊落石防止対策工の、概要及び工

施設の清掃や周辺管理、小規模修繕、電気料金の一部や水道料金など地元が負担するルールを定めており、これを踏まえたと上地区で特色ある施設づくりのための意見を出してもらい、町と協議を重ねながら進めたい。

現校舎の建設時に、学校用地の一部として借り上げたもので、それが現在まで引き継がれており、現状は、学校用地の一部と町道にまたがっている。

学校用地として使用しなくなれば、使用目的が違ふことになるため、どのような対応とするかは現在検討中である。

法は。

**答弁 町長**

山腹のり面の不安定土砂の除去と、のり枠工による落石防止対策及びのり面の緑化保護のための厚層基材吹付工など約200平方メートルの山腹工事を県に対し申請しているところであり、補助金の交付が決まり次第、早急に復旧したい。

今後とも、災害の未然防止に努め、町民が安心して暮らせるまちづくりに関係機関とも連携をとりながら、防災対策に努めたい。

**再質問**

工事費は400万程度と聞いているが、水抜き工事は含まれているか。

**答弁**

森岡農林水産課長 水抜き等については、現地調査をした段階で、そういう状況がひどい場合であれば、次の段階で実施と考えている。

## 「三位一体」の構造改革と

### 町の財政について

稲村 功（日本共産党代表）

**質問**

16年度第1回

朝日町議会定例会での町長の提案理由によると、国の「三位一体」の改革により、各自治体に配分される地方交付税と、臨時財政対策債（国が地方財源の不足を補うためのもの）の合計ベースは12%の減となり、また、国庫補助負担金の一般財源化により、公立保育所運営費が廃止されることにより、当町においても国及び県負担の廃止で、約1億円が減額され、町はこれらの財源不足を、財政調整基金及び減債基金から合わせて5億1千万円の繰り入れを余儀なくされたとしている。

一方「三位一体」のもう一つの柱である財源移譲は、所得譲与税



南保保育所の園児

の創設で対応するとしているが、わずか2,600万円である。

せめて、財源移譲が確保されるまで、今の「三位一体」の改革を中止すべきと思うが、町長の所見は。

**答弁 町長** 具体的な大きな影響として、常設保育所の運営に係る国庫負担金と県負担金を合わせて約1億円の特定財源を計上できなくなつた。

さらに、地方交付税については、臨時財政対策債を加えた総額が、地方全体で約2兆9千億円、前年度に比べ、12%もの大幅な削減がなされ、財政環境は極めて厳しい状況になってくると考えている。

町としては、税財源の移譲が最優先に行われ、安定的な税収を確保できる地方税制度にすべきと考えている。

このため、5月にも国に対して全国町村会など地方6団体で、国に働きかけていきたい

### 市町村合併について

**質問** 一市三町の合併が事実上崩れた今日の事態を、町長はどのように考えているか。

今回の合併問題は、国・県主導の“はじめに合併ありき”で進められたところに問題があつたのではないか。

合併を進める主役は、あくまで町民であることを忘れてはいけな

**答弁 町長** 合併はあくまでも

住民の意思を踏まえ、市町村が自主的に判断するものであり、何よりも住民の幸せの実現こそが、合併問題の最大の課題であると認識しており、今後とも広く町民の意見を拝聴するとともに、各議員とも協議を重ねていきたい



4月10日に開催された合併協議会

### 教育問題について

**質問**

昨年11月末以来、教育長の空席が続いているが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の、第16条で「教育委員会に教育長を置く」と定めてあり、いつまでも空白にしておけないのではないか。

心の相談員の補充を考えている

か。

16年度予算で、あさひ野小学校の東隣にプール建設等を見据えた用地費として約4,200万円が計上されているが、一日も早い完成を望むものであり、建設計画を聞きたい。

**答弁 町長** 現在、職務代理である事務局長が遂行しており、教育委員会の選任については、教育行政に深い関心と熱意を有する人材の確保に努めてきている。

**答弁 柳下教育委員会事務局長** 心の教室相談員については、成長期にある中学生の悩みや不安などに適切に対応するため、朝日中学校に設置し、担任や生徒指導、養護教諭などと連携を図りながら望ましい支援のあり方を探っており、14年度は344件の相談を受けている。

相談員は現在欠員となっているが、中学校においてカウンセリಂಗ指導員という専門の教員で対応している。

相談員の選任は、一定の専門的な知識や経験が必要であり、適正な人選をしていきたい。

16年度当初予算で、あさひ野小学校周辺での用地取得を計上しており、プール建設等を見据えたものとして、施設規模や管理の方法



あさひ野小学校

など改めて検討していきたい。

## 平成16年度予算について

大森 憲平（自民クラブ代表）

質問

町制施行50周年記念イベント開催事業計画を聞きたい。

保健センター及び児童館は、どんな形状になるのか。

水稲育苗施設建設事業の内容を聞きたい。

答弁

町長・大森総務課長

昭和29年8月1日に1町6力村が合併し、名峰朝日岳にちなみ、朝日町と命名され、満50年を迎えるが、各種イベントを全町民で祝いたい。

具体的には、8月1日の記念式典、朝日岳山頂で来光を拝む朝日岳登山会、8月9日のNHK巡回ラジオ体操、50年の歩み写真展また北日本新聞社との共催で交流人口の増大と新たな地域おこしをテーマにした「ど〜んと朝日」事業を開催する。

答弁 町長

既存の建物を改築し、保健センター部分は運動指導室、料理実習室、集団検診室、地域交流室等約720平方メートル、児童館部分は、集会所、遊戯

室、図書室、創作室等約300平方メートルの施設規模で整備を行い、またバリアフリー化とするなど利用しやすい施設整備を図り、年度内の完成を目指したい。

あさひ野農業協同組合が事業主体となり、現在の大家庄地内に設ける育苗施設を取り壊し、跡地に施設面積約1,190平方メートル水稲作付面積500ヘクタールを対象として、約12万箱の育苗ができる新しい施設を建設するもので総事業費は約2億8千万円で、そのうち、国・県・町合わせて1億4,593万7千円を補助する。

## 町の施設の管理委託について

質問

「らくちの」施設のサンパルスとクアシシステムの関係について聞きたい。

農林水産物加工施設の委託管理はどうなるのか。

他の施設の委託管理はどうか。

答弁 町長

「らくちの」

の管理運営は、㈱サンパルスに委託し、サンパルスは施設の運営業務を㈱日本クアシシステムに委託していたが昨年末、日本クアシシステム本社の業績不振が原因で、当社からの申し出により、12月25日付で委託契約を解除し、26日からはサンパルスが運営している。

現在、温浴施設のノウハウを持った民間会社と、全面的に管理運営を任せることを念頭に折衝しており、方針が固まり次第、定時株主総会、議会に説明したい。

管理は利用する組織と考え、農村女性グループでは、法人格を有する新しい組織、農事組合法人の設立に向け、取り組みを行うっており、組合員の募集、発起人会の開催、法人設立総会等の準備が進められている。

管理運営に必要な経費は売り上げに対し、一定の割合を手数料として、運営組織に納入する方法などを検討している。

「なないろKAN」の管理運営は、(有)あさひぶるさと創造社に委託しており、16年度の経営目標

として、収益性の向上に向けた管理経費の見直し、新たな社内規則の設定に伴う給与等の見直しを行うが、いずれは独立採算制による会社経営ができるよう、指導、助言していきたい。

生涯学習館、ふるさと美術館、文化体育センター及びヒスイ海岸オートキャンプ場は、財団法人朝日町文化体育振興公社に委託しており、町職員も派遣し、教育委員会と常に連携を図りながら、施設の適正な管理運営に努めている。



「らくちの」で行われている水泳教室

## 朝日町商店街の 活性化について

質問

商店街に空き店舗があるが、よい利用法がないか。

夜間照明の電気料負担が多く、困っておられるが、補助などできないか。

今後、活性化につながる支援策をどう考えているか。

答弁 町長

これまで商工会が中心となり、商店街のにぎわいづくりに向け、街かど美術館や産業フェアなどが開催されており、町では、新年度事業として新規雇用と、空き店舗の活用を図るため、緊急雇用特別創出事業において、商工会と連携し、「市街地うるおい空間創出事業」として、街かど美術館を拡充し、絵画展、写真展、サークル展を開催し、合わせて休憩所を設置し、買い物客や町民が気軽に立ち寄れる場所を設ける計画がある。

答弁 稲荷商工観光課長

商店街の街路灯は、商店のにぎわいづくりはもとより夜間の防犯灯の役割を担っており、朝日町防犯灯設置等補助要項により、電気料の一部を助成している。

商工会が中心となり、6年度か



空き店舗を活用した街かど美術館

らにぎわい創出事業、9年度からは中小商業活性化事業に取り組み町としても、「あさひまつり」の開催助成や、「あつたかあさひ産業フェア」、「紅葉まつり」への助成を行ってきており、また地元消費を促す「あさひ商品券」など各種報奨金の交付においても活用し、商店街の活性化に努めてきています。

今後とも、商店街の活性化については、商工会と緊密に連携しながら、活性化に向けた支援策を図っていききたい。

## 海岸災害対策について

水島 一友（平成会代表）

質問

昨年12月20日未明から21日にかけて、近年にない寄り廻り波で、海岸の至る所で被害が発生し、また今年に入り2月23日未明から24日にかけて、人工リーフの16ヶブロックの散乱があった。

今までにないことで、地区住民に不安が広がっており、速やかに復旧し、工法を改めて研究し直す必要があると思いい、国・県に対して、調査・研究を強く要望し、早急に対策をとるべきではないか。

答弁 町長

今年の冬はかつてない高波被害を受け、応急対策工事として、県土木事務所では侵食箇所にはフトン管による根固工の設置、管理用道路前面の盛土復旧工事が行われ、農地や水路等への砂利流入箇所は、町で除去作業を行った。

境海岸塩田付近の人工リーフ被害は、県土木事務所では天候が安定次第、詳細な現地調査をし、復旧工事に着手したいとのこと。

2度にわたる高波などの被害に対し、人工リーフや緩傾斜堤を含めた海岸防御施設の十分な調査と工法等の検討を行うとともに、個々の海岸に適した侵食対策を講じるよう、県等関係機関にお願いしていきたい。

再質問

人工リーフが寄り廻り波に通用しなくなつたのではないかと考えており、調査・研究を早急に行い、当局で頑張ってもらいたい。



人工リーフ被災状況



## 代表質問

### 民間路線バス廃止による 今後の対策について

**質問** 本年3月末で、民間路線バス市振、愛本線の2路線が廃止となるが、公共バス運行というすばやい対応をされた。

住民の不安解消のために、今後の公共バス運行対策を聞きたい。

**答弁 町長** 公共バスの運行は、公共交通機関のない地域の方の生活に必要な移動手段を確保するため南保、笹川、山崎、大平、大庄方面の運行を行っている。

今回の2路線廃止については、現在運行している公共バスの運行形態を大きく変えることなく、愛本、市振線の利用者実態に即応した運行ができることから、住民の足として確保することにした。

運行時間は、泊高校生へのアンケートを行うなど、交通弱者の方の利便性にも配慮をしている。

市振線については、公共バスの大平線を延長し、市振地内まで1日3便の体制で運行する予定で、今後とも、利用者の声を聞きながら安全で効率的な運行や住民の足の確保に努め、生活に必要な移動手段を確保していきたい。



公共バスを利用する高校生

**再質問** 月曜日から金曜日まで運行で、交通弱者の意見も聞くことだが、運行計画表ができ上がっているのか。

4月から運行になると思うが、町民への宣伝はどうするのか。

**答弁 稲荷商工観光課長** バスの運行時間については、計画案は考えており、宣伝方法は、なるべく早く利用者に周知したいので、現在の地鉄バスの中でチラシを配ったりしたい。

**再質問** 高齢者の方が多いと思うので、わかりやすい心遣いをお願いしたい。

### 電源立地地域対策 交付金について

**質問** 15年度までは水力発電施設周辺地域交付金、昨年10月から原子力、水力発電等を集約し、電源立地地域対策交付金と名称変更したこの交付金は、周辺地域振興として住民生活に大変役立つている。

今後この交付金はどうなるか、17年度以降も引き続き交付されるのか聞きたい。

**答弁 町長** 水力発電施設周辺地域交付金は、水力発電施設の設置により、自然環境や生活環境への影響を及ぼす地域に対し、その影響を緩和することに要する費用に充てるもので、昭和50年度の境川第一、第二発電所を皮切りに平成14年度から交付が始まった朝日小川第一発電所まで、現在4発電所に係る交付金を受けている。

事業として、これまで大平、境地区での簡易水道や農業用排水路、消防施設、山崎地区での町道湯ノ瀬北又線の防護柵等安全施設などを整備してきた。



交付金によって整備された排水路

エネルギー施策の見直しの一環で、平成15年10月1日より発電施設関連の交付金を統合し、電源立地地域対策交付金が創設され、この新交付金の交付は発電施設の運用開始15年後から45年までの30年間と設定されており、境川第一、第二発電所は16年度で、境川第三発電所は18年度をもって交付終了となり、14年度から交付されている朝日小川第一発電所は43年度まで、18年度から交付予定の朝日小川第二発電所は47年度まで交付されることになる。

なお、交付金の1市町村当たりの限度額は4,500万円と定められている。

## 教育問題について

中 陣 将 夫

### 質問

先の12月議会で、当分の間、教育長を置かないと答弁があったが、教育長の長期不在は好ましくないとと思うが、町長の真意を聞きたい。

南保小学校の閉校が1年先送りされた経過を聞きたい。

今後の五箇庄小学校について、何か計画があるのか、今後の方針等を聞きたい。

### 答弁 町長

市町村合併され新しい市になれば、教育長は一人になるわけであり、当分の間、教育長を置かないとした。

決して当町の行政には後退することなく、前進をしていると理解している。

### 答弁 柳下教育委員会事務局長

今年1月19日に南保地区区長が町長に面会し、南保小学校は17年4月をめどに他校と統合することを要望されたが再考を促され、1月26日に南保地区町内会長、各種団体長会議が開催され、南保小学校は16年3月で閉校し、跡地整備

を進めると決定された。

2月2日にはPTA役員の方が町長と面会し、南保小学校の閉校について、その思いを伝えにこられた。

町では、これまでの経過や現在の状況を総合的に勘案し、2月26日に17年3月閉校を提案し、その結果、地区やPTAの了解をいただいた。

教育委員会では、児童の減少が進む中、教育効果等を勘案し、従来から小学校は2校が望ましいと考えてる。

### 再質問

小学校は2校でいいという町の方針であると思うが、現在130名近い児童がいる五箇庄小学校を改築する考えはないか。

### 再答弁 柳下教育委員会事務局長

小学校の児童数の見込みは、21年では600名と予測し、1学年平均で100人となるので、学校数からいえば、これまでも主張してきた2校があるべき姿と考えている。

## 社会福祉について

### 質問

社会福祉協議会は、町民の各世帯負担や募金、及び町からの財政支援で運営されているが、その内容と活動を聞きたい。



介護予防教室（ふれあいいきいきサロン）

### 答弁 林健康福祉課長

朝日町

社会福祉協議会は、社会福祉事業の健全な発達と活性化をはかり、地域福祉の増進を目的とする社会福祉法人であり、町に居住する方や、その趣旨に賛同された方で組織している。

会費は1世帯あたり年間850

円、日本赤十字社社費として38

5円、共同募金等で475円の合

計1,710円で、前期分は6月

に985円、後期分は10月に72

5円を各世帯に依頼している。

15年度の運営費総額は2,84

7万7千円であり、町民を対象と

する会費収入等は406万1千円

で全体の14%、町の補助金委託事

業費は1,319万9千円で46%

県社会福祉協議会の助成金が57

3万2千円で20%、共同募金や善

意銀行の寄付金が542万5千円

で19%である。

主な事業は、地方・介護予防教

室や健康体操教室、各種ポランテ

ィアの養成、生活福祉資金の貸付

家族介護者交流、共同募金や歳末

たすけあい募金、悩みごと相談な

どの各種福祉相談、ひとり暮らし

高齢者ランチサービス事業、介護

用自動車の貸し出しなど地域に根

ざした多様な福祉活動を展開して

いる。

## 主要地方道黒部朝日公園線について

水野 仁士

### 質問

主要地方道黒部朝日公園線は、近い将来新幹線の黒部駅へのアクセス道路としての利用価値の多い道路となることは必然であり、現在も黒部インターへ通じる重要な地方道でもある。

黒部川にかかる権蔵橋も新しく架け替えられ、一部バイパス道となり、すばらしい道路となつて入善町中沢地内まで来ているが、それ以降中沢地内を含め、細野地内までは、手つかずのまま放置されているが、計画はあるのか。

羽入地内を抜け、道路なりに小川上流へ上つていくと、本来の道路が使用されず、架設道路のような迂回路をここ数十年使用している。

通行止めのこの場所は昔から雨が降れば土砂崩れ、風が吹けば落石、雪が積もればなだれ等の危険極まりない箇所であるが、いつまでこのような状態なのか。

スノーパー農道と地方道の交差点付近は、除雪した雪がたまりやすく、小学校の通学路の歩道が埋ま

り、子供たちは車道を通行しており、細野側及び坊側に消雪設備の設置をお願いしたい。

### 答弁

朝倉建設課長

主要地方道黒部朝日公園線は、黒部市若栗地内を起点とし、終点が朝日町山崎、湯ノ瀬までの全長16・6キロの県道で、通勤通学はもとより、

農業や観光など地域産業をささえる重要な道路であり、沿線の1市3町で主要地方道黒部朝日公園線建設期成同盟会を設立し、全線にわたる道路整備の促進を、県など関係機関に要望を行ってきたところである。

入善町、中沢地内から、下今江地内の区間は、沿線に建物や物件などが多いことから、地元ではバイパス案と現道拡幅案で協議検討がされているが、意見集約がされていない状況であり、細野地内については関連区間でもあり、その推移を見守りたい。

羽入地内の道路改良については、県土木事務所に現地調査をお願いすると共に、坊、細野地内の道路消雪施設の設置については、これまで県への重要要望事項として、要望を行ってきた。

今後とも関係地域住民や入善町などと連携を図りながら、県など関係機関に事業促進を働きかけた。

### 再質問

まだまだ手つかずで未整備、拡張、消雪施設設置等の重要課題が山積みしている主要地方道なので、一日でも早く県側に要望することを強く望む。



細野地内の未整備区間



山崎地内の未整備区間

## 教育環境について

脇山 勝昭



南保小学校、五箇庄小学校の校外合同学習

**質問** 各小学校間で児童の相互交流を推進し、芸術文化鑑賞やアーチストとの交流等、生の感動を味わえる環境づくりの考えは。当町での教育が人間形成の原点となるよう、故郷の自然や文化、地域への愛着心や、地域の連帯感の必要性を育む、ふるさと教育を推進する考えはないか。

**答弁** 柳下教育委員会事務局長 学校間での児童の交流については、四つの小学校による毎年の合同運動会のほか、南保小学校、五箇庄小学校では、学年単位での校外合同学習、人権教育のための講演会を一緒に聞くなど、総合的な学習時間の中で実施されている。

また文化庁では、優れた舞台芸術の鑑賞を学校教育の一環として提供し、豊かな感性を有する子供の育成を図るための、本物の舞台芸術体験事業の巡回公演などの事業が実施されており、このような機会の活用も図っていききたい。

小学校の低学年では、学校周辺の自然観察、町内の施設の様子など、また高学年では町、県の地理の特徴、環境問題、郷土の歴史などに取り組み、中学校では、社会に学ぶ14歳の挑戦、朝日岳登山、生徒会活動でのクリーン作戦、老人訪問施設など実施している。

当町には、学習素材は数多くあり、さまざまな活動を土台として

郷土に誇りを抱き、発展を願う気持ちを含め、今後とも大切に育てていきたい。

## 家族介護支援について

**質問** 家族介護支援の現状はどうなっているか。

家族介護者の心身のリフレッシュを行うためなどに利用するサービスの一つである、レスパイトケアを導入する考えはないか。

**答弁** 林健康福祉課長 ホームヘルパーによる訪問介護やショートステイなどの施設利用サービス、タクシー利用料金の助成、紙おむつ購入費の助成など、在宅福祉サービスの充実に向けている。

また、介護者の心身のリフレッシュを図る目的で、交流座談会や、家族介護教室を実施している。

新年度は、3級ホームヘルパー養成研修にも取り組むこととしており、今後も引き続き支援を図っていききたい。

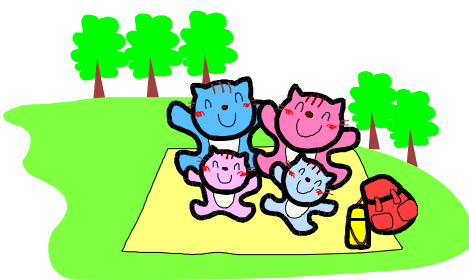
施設等の滞在型によるレスパイトケアとして、家族の通院、休息等の理由による一時的保護を行う短期入所事業を実施しており、新年度には、新たに心身障害者、児童を対象としたデイケア事業を実

施することになっている。

さらには、障害児の地域生活支援事業として、にいかわ養護学校通学者を対象とした、放課後児童保育事業への補助、また、身体障害者、知的障害者を対象として、入浴、給食、生活指導等を目的としたデイサービス事業を実施している。

家庭での援助を行うレスパイトケアとしては、ホームヘルパーを家庭に派遣し、身体介護、家事援助、移動支援を行う居宅介護支援事業を実施するなど、家族等の介護負担の軽減に努めている。

今後、実施利用施設や利用対象者の拡大を図り、障害の程度、特性に応じニーズを的確に把握し、一層の充実と利用促進に努めていきたい。



## 教育について

蓬澤 博

### 質問

教育長不在の期間がかなり経過しており、教育行政の停滞や混乱を招くことが必定であると思うが、どう考えるか。

中高連携交流事業で、県内でも特筆すべき実績を残している泊高校の将来についての考えは。

### 答弁 柳下教育委員会事務局長

教育長不在の間は、教育委員会の指揮監督のもとに、教育行政の課題に事務局職員一丸となって努力していききたい。

泊高校は現在普通科3クラス、商業科1クラスだが、普通科、商業科の分離の方針により、商業科は廃止の方向にあると予想され、また、適正規模として1学年4学級から8学級程度が望ましいとされており、泊高校の存続が問われることになる。

しかし、一方1学年3学級以下となる学校は、地域の教育力などを積極的に活用しながら、その地域ならではの環境、情報芸術などの学習により、特色ある教育活動を

展開する場合、存続を検討することとしており、朝日中学校、泊高校の特色ある連携活動を、大いにPRし、活動の成果が実を結ぶよう、働きかけていきたい。

### 再質問

教育長の存否を確認する法律は強制法であるか否か。

泊高校の後援会長としての立場で、町長はどのように存続に関して、考えているか。

### 再答弁

教育長は置かなければならないという主旨である。

### 答弁 町長

町長として思うことを述べるが、県では市町村合併を念頭に、県立高等学校の再編が論じられているなか、中学校、泊高校の評議員の連携もきちっと行い、泊高校がどういう学校を目指すかの位置づけをしないと生き残り等については難しいと思っている。

泊高校の生徒は、部活動とか文化・スポーツなど、ものすごく努力している生徒が多く、町としては町内外問わず、泊高校の生徒が

北信越以上の大会の出場者には、激励金を渡している。  
私は、そういう気持ちで望んで学校が存続していければ一番ベストであると思っている。



KUROBE アクアフェアリーズから指導を受ける中高生

## 公共バスについて

### 質問

公共バスの運行を今後どう考えるか。

### 答弁 稲荷商工観光課長

一つ  
のあり方として、住民と児童が一緒にバスに乗る混乗方式があり、異世代とのコミュニケーションの場として、児童にとっては社会道徳を学ぶ機会が増えるなどメリットも多いが、乗車定員と児童数、公共バスを利用する方の利用しやすい時間帯、児童の通学時間との関係などの条件が合致することが先決だと考えている。

また、公共バス利用者の多くが医療機関への通院者であり、現在と同様に全路線で配慮したい。

### 再質問

教育委員会、健康福祉課として、どう考えるか。

### 答弁 柳下教育委員会事務局長

児童にとつて、ありがたいことで、関係課と色々な協力をし合い、有効なスクールバスの使い方を検討したい。

### 答弁 林健康福祉課長

診療所を利用する患者の疾病内容や、受診回数、年齢等について調査を行うと共に、公共バスの運行日と、町内にある医療機関の診療科目、診療体制との調査を行っている。

## 海岸侵食について

脇 四計夫

**質問** 元屋敷に「早稲の香や分け入る右は有磯海」という句碑があり、芭蕉がここで句を詠んだと言う説があるが、古い登記簿を調べると「元屋敷有磯」の土地は存在したが、今は侵食で海の中で、登記簿は閉鎖されている。

**答弁** 朝倉建設課長 県土木事  
ここ数十年間、莫大な費用をつぎ込んで海岸整備が行われているが、一夜の高波で人工リーフが崩れており、抜本的な対策を強く政府に要望すべきと考えるが、町の対応策を聞きたい。



松尾芭蕉の句碑

務所では、波の状況を見て詳細な現地調査を行い、施設の復旧工事に着手したいとのことであるが、町としては今回の高波の被害状況を踏まえ、人工リーフや緩傾斜堤を含めた海岸施設の十分な調査、広報などの検討をお願いすると共に、町の海岸に適した侵食対策を講じるよう、県など関係機関に働きかけていきたい。

**再質問** 河川が氾濫して河川敷となつても、所有権はなくなるが、海の侵食によって削り取られた土地は、所有権を主張できない。



臨時職員として働く方

るので、土地と住民の財産を守るためにも、県に対する要望だけでなく国土交通省にも強く海岸整備の要求をしてほしい。

## 町の臨時職員の待遇について

**質問** 役場や出先機関、総合病院には臨時職員が勤務して居るが、現状と労働条件を聞きたい。

**答弁** 大森総務課長 事務補助は現行月額5,500円、保育士は5,700円、診療所看護師は6,050円で職種や雇用形態等により単価を設定しており、時給は各職種ごとの日額を基本に単価を設定している。

通勤手当の支給や社会保険、雇用保険等の加入も行っている。

## 国民健康保険税の減税について

**質問** 国保税の減税については毎議会でも要求をしているが、来年度予算でも減税が見送られているが、原因は何か。

**答弁** 林健康福祉課長 14年度決算は、会計年度所属区分の変更を考慮した場合の実質的な収支は約1千万円の赤字、15年度は医療費の増嵩、近年の経済情勢により、保険税収入の落ち込み等により、単年度収支は2千万円から3千万円の赤字になると推計している。

今後の収支状況、とりわけ医療費の動向が不透明で、現段階では減税の考えはない。

**再質問** 厚生労働省の基金などの取崩し指針は、保険給付金の25%で当町では1億6,250万円にあたるが、積立金は4億円以上あり、町民一人当たりの国保積立金は全国平均は1万1千円のところ、当町は8万7,400円になる。

減税がされてないため、基金剰余金がこの数字になっていると考え、どのような方法で町民の負担を軽くすることができるのか、調査研究をすることを要望する。

## 常任委員長報告

### 総務教育委員会

当委員会は、3月18日は午前10時、19日は午前9時30分から開催し、南保小学校、黒部市立三日市小学校の現地調査を行い、議会から付託されました7議案を慎重審査いたしました結果、付託されております全案件は、それぞれ原案のとおり可決すべきものと決しました。

なお、議案審査の過程において、次の要望、意見がありました。

- 1 教育長の不在は、教育行政を推進する上で支障を来たすおそれがある深刻な事態であり、早急に教育長を選任されたい。
- 2 成長期にある子どもたちの悩みや不安を解消させるため、欠員となつている「心の教室相談員」を早急に選任されたい。

次に、請願審査結果を申し上げます。



南保小学校のホームページの説明

前回から継続審査となつております「請願」2件「イラクへの自衛隊派兵計画を直ちに中止することを強く求める意見書採択に関する請願書」並びに、「戦闘の続くイラクへの自衛隊派遣の中止を求める意見書に関する請願」については、不採択にすべきものと決しました。

また、今期定例会において、議会から付託されました「請願」1件「屋内ゲートボール場の建設を求める請願書」については、継続審査とすることに決しました。

### 環境厚生委員会

当委員会は、3月18日、19日の両日、午前10時から開催し、宇奈月町健康福祉センターの現地調査を行い、議会から付託されました11議案を慎重審査いたしました結果、付託されております全案件は、それぞれ原案のとおり可決すべきものと決しました。

なお、議案審査の過程において、次の要望、意見がありました。

- 1 住民からの要望が強い、新たな町営墓地の造成については、実現に向け努力されたい。

次に、陳情審査結果を申し上げます。

今期定例会において、議会から付託されました「陳情」1件「安心と信頼の年金制度改革を求める意見書等採択についての陳情」については、願意妥当と認め、採択すべきものと決しました。

### 産業建設委員会

当委員会は、3月17日は午前10時、18日は午後1時30分から開催し、県営ため池等整備事業、農林水産物加工施設の現地調査を行い、議会から付託されました7議案を慎重審査いたしました結果、付託されております全案件は、それぞれ原案のとおり可決すべきものと決しました。

なお、議案審査の過程において、次の要望、意見がありました。

- 1 農林水産物加工施設の管理運営にあたっては、運営主体となる団体が安定的な経営が行われるよう、適切な助言、指導に鋭意努められたい。



農林水産物加工施設

## 合併協議会の経過と解散について

市町村合併調査研究  
特別委員長 中陣将夫

一市三町合併協議会は、対等互恵の精神を持って、9万住民の期待と希望のもと昨年5月にスタートしました。

12月13日には新市名を「黒部市」と決定したものの、庁舎位置の結論が出ないまま、入善町から凍結の申し出があり、そして今年4月10日に合併協議会が開催され、解散することが了承されました。

当初、新市名と庁舎位置の決定はセットで行うべきという考えもありましたが、新市名については、既存名は使わないという主張もあったものの、入善町の譲歩で決定しました。

しかし、庁舎位置については、入善町役場に置くことに三町は賛成しましたが、黒部市の要請により、決定が先送りとなりました。

これに起因して、入善町の凍結・離脱の表明があり、合併協議会解散という残念な結果となった次第であります。

## 議会日誌

### 一月

- 4日 新年賀詞交歓会
- 23日 議会だより編集委員会

### 二月

- 12日 朝日町白馬村議会議員連絡協議会総会（白馬村）
- 16日 議員協議会
- 17日 朝日町青海町議会連絡協議会総会
- 18日 新潟県三島郡越路町議会視察来庁
- 23日 下新川三町議会議員協議会（宇奈月町）
- 24日 議会運営委員会
- 25日 東部議会議長協議会研修会（入善町）

### 三月

- 3日 議会運営委員会  
議員協議会
- 4日 小学校教育環境整備特別委員会
- 4日 富山県町村議会議長会定期総会（富山市）
- 8日 第1回議会定例会

（提案理由説明・細部説明）

全員協議会

9日 全員協議会

10日 本会議（質疑）

市町村合併調査研究特別委員会

11日 議会運営委員会

15日 本会議（代表質問）

16日 本会議（一般質問）

17日 産業建設委員会

18日 総務教育・環境厚生・産業建設委員会

19日 総務教育・環境厚生委員会

23日 本会議

（委員長報告・討論・採決）

全員協議会

議会運営委員会



舟川べりのかがり火

## 編集後記



新年度を迎え、舟川の桜も見事に咲き、新たなスタートを切るなか、合併問題に関しては残念な結果になりましたが、これからの地方行政のキーワードは「総合化」だと思います。

縦割り行政で機能していた時代とは変化している感があり、今課題となっている年金、医療等の社会保障やインフラ整備は、住民の生活と生産等をバランスよく、地域住民を中心に総合的に捕らえ直すうえで、地域が主導しながら総合的な施策を展開していく時代に変わらざるべきと思います。

重要なことは、こうした考えを実践していける人的集団を各地方団体がいかに育成していくかであり、組織を効率的にする事と同時に、優秀な専門職を含めた人材の確保に期待したいものです。

### 議会だより編集委員

- 松倉彰夫 廣田 誼
- 吉江守熙 河内正美
- 河内邦洋 大森憲平